



内股歩きで裾はきれい 着崩れもしにくい

和服を着たときも、カジュアルと同じように活発に歩いたり、動いたりしてしまうことはありませんか？

そのたびに、和服はいたんでしまっているのです。

◎内股で歩くというのは衣生活の知恵

和服を着た時、おばあちゃんに「外股であるいちゃだめよ」と言われても、お行儀のことだと考えてはいませんか。足を内股にして歩けば、前もはだけず着崩れないだけでなく、泥はねが上がっても外に散りますから、裾を汚す心配もないのです。

◎雨の日はカカトから先につけ 振り袖の袂は腕に掛けて

洋装のときは爪先に重心がか



内股歩き



泥はねは外に
逃げます



外股歩き



泥はねは内に集中
裾後ろを汚します

かりますが、草履でこの歩き方では、ぱたぱたとカカトが離れて泥跳ねしやすくなります。カカトにぴったりと草履が付くように心がけましょう。また、振り袖の袂は腕に掛けておきましょう。